

中学生の「税についての作文」

大川税務署長賞

納税で返す「恩」

大木町立大木中学校

三年 山 浦 彩 礼

みなさんは、どんな気持ちで税金を納めているのだろうか。正直、税金なんて嫌いだ。そんな気持ちで納めている人も多いと思う。私も前はそうだった。でも、ある出来事を通して税金の大切さを知り、税金を納めることに対して気持ちが変化したのだ。

みなさんは「介護保険制度」という制度を知っているだろうか。これは、介護が必要になった人をお金の面で支える制度で、介護保険の保険料と国の税金約三兆円を財源に運営されている。私の曾祖父は脳梗塞により体が不自由だったため、この制度を度々利用していた。曾祖父は週に三回デイケアに行っていた。ある日、私は祖母に、「デイケアに行くのって幾らくらいかかるの?」と尋ねた。すると祖母は、「本当は一回三万円かかるよ。だけど、介護保険のおかげで九割給付してもらえるから、三千円で済んだよ。」と教えてくれた。私は負担がたったの一割と知りとても驚いたし、給付のおかげで介護サービスを利用しやすくなり、家族を介護している人も助かるだろうと思った。その後、曾祖父に車イスが必要になった時、買うと十数万円以上の車イスがレンタルサービ

スと制度のおかげで、月に数百円というお財布にやさしい金額で借りることができた。その他にも、家の中を車イスで移動するためのスロープをつけた時やトイレと風呂場に手すりをつけた時のリフォーム代を九割給付してもらえた。私は、介護保険制度は本当にありがたい制度だと思った。この制度があるから、裕福な家ではなくても手厚い介護を受けることができるし、私の曾祖父もこの制度に助けてもらった。だから、私はその恩を返すつもりで税金をしっかりと納めたいと思った。

また、私はこの作文を書くことを機に、身の回りで使われている税について調べてみた。すると、小中学生の教科書代などの教育費、社会保障、救急車や消防車の利用料、公共施設の建築費や整備費、災害で様々なものを失ってしまった人を助けるため、など色々なことに税金が使われていた。

では、もし税金がなかったらどうなるのだろうか。学校に行きたくてもお金がないから学校に行けない。救急車を呼ぶお金がないため助かるはずの命を助けられない。災害で家も職も失ってしまい生活していけない。このように、税金がないと世の中が生き辛いところになってしまう。税金は誰もが生きやすい世の中にするためになくてはならない大切なものなのだ。

私は、税金のおかげで私達が生活できていると言っても過言ではないと思う。私達は、本当に税金に助けられているのだ。だから、みなさんもその恩を返す気持ちで税金を納めるのはどうだろうか。